

2018年(平成30年)1月4日(木曜日)

三島のNPO 研修生受け入れ

ギニアの農業発展へ支援

サンコンさんによると、ギニアは農業が主要産業で米を主食としているが、

19年春から

アフリカ西部・ギニアの農業の発展を支援するため、三島市のNPO法人「グラウンドワーク（GW）三島」が2019年春から、ギニアの若者を研修生として受け入れる準備を進めている。元外交官でタレントのギニア人オスマン・サンコンさん（68）の長男佐伯勇さん（33）がGW三島で働いている縁で、「ギニアの食糧不足を解消したい」というサンコンさんの思いに協力する。（佐久間博康）

「日本とギニアの懸け橋を農業の研修生を受け入れる形で引き継ぎたい」と意気込む佐伯勇さん（左）三島市内で 切り込み写真はオスマン・サンコンさん



サンコンさんの思いに協力

円滑に意思疎通ができるよう、参加者には来日前に半年間ほど日本語の講習を受けてもらう。日本語の講

習はサンコンさんが理事長を務めるギニア西部ポツア県ポロンデの小学校の校舎で一八年九月ごろから、休日や夜間にインターネットなどを通じて行う。ポロンデはギニアの首都コナクリの北西約百キロにある農村地帯だ。研修では静岡市の専門学校と連携し、留学の在留資格で来日してもらう方針。研修生がギニアに戻って起業するための資金の融資も検討している。GW三島は職員の佐伯さんの縁でサンコンさんと面会し、研修の実施に向けて協議することで合意した。GW三島の渡辺豊博専務理事（右）は「三島からギニアの将来を担うリーダーを輩



出したい」と語る。佐伯さんはサンコンさんと日本人の母親の間に生まれ、日本で育った。DJなどの仕事をしてきたが、サンコンさんから母国の農業を発展させたいとの思いを度々聞いており、農業の知識を習得するため、一六年五月に東京から三島市に移住して就農。農家でのアルバイトを経て、昨年八月からGW三島の職員となった。

「農業のビジネス化の仕組みを学んでいる。父が築いてきた日本とギニアの懸け橋を農業の研修生を受け入れる形で引き継ぎたい」と意気込む。サンコンさんは「日本にいてもギニアのために貢献することが私の悲願だった。GW三島が研修生を受け入れる仕組みを考えてくれてありがたい。息子が私の母国のために立ち上がった」と喜んでいる。